

東京校

氏名 M. K.

出身大学 埼玉医科大学

6年間再試を一度も受ずに卒業するも第10/回の必修で不合格。

浪人の決ま、に最初の半年ほどは東田先生の授業でさえ、左も右もに受けては、いません。マッチングに向け、MACで知り合った、同大学の友達と勉強会という形で、ごまかしごまかし週に1回していき...

10/回で不合格になった同大学の友達がみんな一生懸命がんばっている姿をみたり、東田先生の振り目ない講義を無駄にしている自分が客観的にみえた時、今まで僕を支えてくれた多くの方への申し訳ない気持ちがいっぱいになりました。「ここで腐ったら、その程度だから浪人するのだ」と自分に言いかけ少し気持ちを切り替え、10月からCITEルームに移り、4月からの講義を1から復習し始めました。(2倍量のCITEデッキで2年分の講義を1年分の時間で)復習し始めてみると、出ていたばかりの講義でも、大切な考え方を聞き落としていることが多々あり、自分の無力さを痛感し、初心にかえって勉強する気持ちになりました。MACに行けば「社長さんとはじめ事務の方が家族のように接してくださり、東田先生はどんな質問に対しても必ず答えてくださる」と東田先生が疑問に思わないような質問がなにもないから、考えながら自ら成長していくように努めました。後半の勉強や勉強会により、少しは東田先生の考え方を吸収できたと思えます。講義を100%吸収しても東田先生を越えることは不可能ですが、まるく100%吸収するつもりで講義を受けなければ「浪人した意味がない」と思えます。ここからは持ち前の発想力と東田先生の医学の考え方、そして人間性を大切に伸び伸び成長していきたいです。MACでお世話になった1年は、一生懸命に思い出していただきます。ありがとうございました。